

のびやかに緑広がる ふるさとの公園

街が発展し

進化していけばいくほど

ふるさとの緑も

より深く、豊かに。



新鎌ヶ谷

(しんかまがや)

北総土地のなだらかな緑の大地の上に広がる鎌ヶ谷市。その市域を鉄道が南北に貫いたのは、大正12年開業の北総鉄道船橋線（現在の東武野田線）です。その野田線に平成11年、新しい駅が誕生しました。新京成線や北総鉄道との交差点で、相互に乗り換えができるようになった「新鎌ヶ谷」です。

それから10年余。かつては畑地が広がるばかりだった新鎌ヶ谷駅前ですが、いまは鎌ヶ谷の新しい中心市街地として発展しています。

今日の登場人物



業平あずま

業平家の長女。母親が経営する小学生向け英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



国谷杜夫

幸子の一人息子。将来の夢は動物園の飼育係。



園谷幸子

あずまの先輩講師で相談相手でもある。家庭菜園が趣味。

こんにちは、あずまです。今日は国谷さん親子と一緒に、イスタンリーグの日本ハムファイターズの試合を観戦に。ついでに、午前中は最寄り駅の東武野田線「新鎌ヶ谷駅」周辺を散策してきました。ここは「貝柄山公園」。森の中に水鳥が泳ぐ大きな池がある、そんな素敵な空間。まっすぐ伸びたメタセコイアの木々も印象的でした。(MAPのA)



今年の4月末にオープンしたばかりの「新鎌ヶ谷ふれあい公園」です。広い芝生が広がり、ユニークなデザインの滑り台があって、子どもたちの歓声が響いていました。もちろん、杜夫くんも大喜びでした。(MAPの㉔)



大規模な再開発が真っ最中の「新鎌ヶ谷駅」の周辺。なかでも東武野田線と平行して伸びる「新鎌通り」(シンボルアロムナード)沿いにはすでに巨大なショッピングセンターや複合商業施設が揃っていました。(MAPの㉕)



市制記念公園の管理事務所の展望台からは、北総鉄道の車両を目の高さで「見られますよ。野球場やテニスコートがあり、ほかにもこのようなアスレチック遊具も揃っていました。(MAPの㉖)



ここは「市制記念公園」です。入り口にはSLやプロペラ飛行機の展示も。ここで「杜夫くんが夢中になったのは児童用電気自動車(100円)。パトカーや消防車などはサイレンが鳴るので、ますますはしゃいでいました。(MAPの㉗)

交通の中心地として 発展する新鎌ヶ谷

美しく整備された新鎌ヶ谷駅の駅前ロータリー(北街区)。正面に建つのは、カルチャー、アミューズなどの複合商業施設「アクロスモール新鎌ヶ谷」です。それでもまだまだ開発途上。美しい街並みを目指した景観の取り組みや、歩行者優先のシンボルプロムナードを整備して、複合的な交通拠点にふさわしい駅前空間づくりが進められています。その一環として、この春には「新鎌ヶ谷ふれあい公園」が開園。駅前子どもたちがのびのびと遊び、地域の人たちがさまざまに憩う新鎌ヶ谷駅前が着々と形成されているのです。

新しい公園が造られる一方で、新鎌ヶ谷駅周辺にはもともと緑豊かな公園があり、地元の人たちに親しまれています。

そのひとつが、「市制記念公園」。園内に入るとホンモノの蒸気機関車が永久停車しています。その横には近くの海上自衛隊下総航空基地から寄贈されたプロペラ飛行機。これらを囲む周回路には、子どもたちがミニサイズの電気自動車に乗って楽しんでいきます。樹林の中の小道をたどっていくとアスレチック遊具。その奥の野球場を囲む周回路も散策が楽しめるサクラ並木です。

さらに、市制記念公園の奥には幹線道路の下を潜る通路があり、その向こう側に進むと、鎌ヶ谷市内最大級の広さをもつ「栗野の森」に出ます。まだ整備されてなく、森の中に勝手に入り込むことはできませんが、森を横断する未舗装の小道は通行可。季節の草花や虫、野鳥の鳴き声を味わいながら、ゆっくり散策を楽しむことができます。



「鎌ヶ谷市郷土資料館」にも、ちょっと立ち寄ってみました。旧石器時代から戦国時代までの様々な遺物や復元住居、近代の民具や農具、木下街道の宿場町だったときの様子などが展示されていました。(MAPの㊦)



市制公園のアスレチック遊具がある場所の脇にある小道をたどって行くと、「栗野の森」に出ます。これから公園として整備されるらしく、中には入れませんが、森の中の小道を歩くだけでも森林浴を楽しめました。(MAPの㊧)



江戸幕府が軍馬を安定的に確保するために設けた直轄の牧の一つ、国指定史跡「下総小金中野牧跡(捕込)」です。捕込とは、半野生の野馬捕りを行う施設で、小金五牧のうち唯一現存する捕込だそうです。(MAPの㊨)



こちらは「貝柄山公園」。リアルな馬の親子の銅像がありました。江戸時代に軍用に放牧されていた馬(野馬)を表現したものだそうです。公園の名前は、公園の西側の台地上にある巨大な中沢貝塚に由来しています。(MAPの㊩)

八坂神社にも立ち寄ってみました。境内に整然と立ち並ぶ庚申塔群は、古くは江戸・元禄の時代、新しくは平成のものまであり、素朴な民間信仰が現代にも続いていることを物語っています。

鎌ヶ谷で新しい歴史を刻み始めているのが、プロ野球・北海道日本ハムファイターズのファームの拠点「ファイターズタウン鎌ヶ谷」です。裂畑が広がる南部地区に天然芝のスタジアムがそびえ、室内練習場や選手の寮も完備。イースタンリーグの公式戦がある日は、新鎌ヶ谷駅から直行バスが出ています。

公園の一角に、馬の親子像が立っています。江戸時代、幕府は軍用馬の飼育のために、いくつもの牧を経営していました。そのひとつが、鎌ヶ谷付近にあった小金中野牧。この中で野馬が放し飼いにされていたのです。牧の周囲には、馬が外に出ることを防ぐ土手が巡らされていましたが、その土手囲いの中へ野馬を追い込む「捕込」の跡が、貝柄山公園のそばに国指定史跡「下総小金中野牧跡」として残されています。

鎌ヶ谷の歴史をじっくり学ぶには、郷土の史料や蔵書が揃う市立図書館本館。隣接する「鎌ヶ谷市郷土資料館」では、旧石器時代に始まって、鉄道が敷かれて近代化していく現代までの長い長い歴史を、パネルや展示物で見せてくれます。「貝柄山公園」は、縄文時代の貝塚が広がっていたことに由来する名前。水鳥が遊ぶ池には噴水が涼しげ。池に沿った並木道や芝生の広場、6月にはアジサイが見頃になります。

貝柄山公園に眠る 北総台地の歴史

